

2026年5月15日
2026年12月期 第1四半期決算 説明要旨



皆様こんにちは。日本ペイントホールディングス共同社長の若月です。本日もご多忙の中、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

これより、2026年第1四半期決算の概要について、ポイントを絞ってご説明いたします。

1. 業績ヒストリカル推移 (第1四半期)

		(億円)									
		2018年 1Q	2019年 1Q	2020年 1Q	2021年 1Q	2022年 1Q	2023年 1Q	2024年 1Q	2025年 1Q	2026年 1Q	2018-2026年 1Q CAGR (%)
連結PL	売上収益	1,492	1,474	1,604	2,227	2,851	3,302	3,843	4,057	4,903	16.0%
	売上総利益	586	579	674	911	1,071	1,299	1,553	1,726	2,150	17.7%
	売上総利益率	39.3%	39.3%	42.0%	40.9%	37.6%	39.3%	40.4%	42.5%	43.9%	-
	調整後営業利益	209	215	164	283	274	378	464	554	764	17.6%
	調整後営業利益率	14.0%	14.6%	10.2%	12.7%	9.6%	11.4%	12.1%	13.6%	15.6%	-
	調整後四半期利益 ^{※1}	107	113	82	210	207	289	350	435	561	23.0%
	調整後EPS (円)	6.7	7.0	5.1	9.8	8.8	12.3	14.9	18.5	24.2	17.5%
EPS (円)	7.3	6.6	4.8	7.6	5.6	10.8	12.5	15.2	22.2	14.9%	
		2018年 1Q	2019年 1Q	2020年 1Q	2021年 1Q	2022年 1Q	2023年 1Q	2024年 1Q	2025年 1Q	2026年 1Q	2018-2026年 1Q Average (%)
オーガニック・ インオーガニック	調整後営業利益	209	215	164	283	274	378	464	554	764	-
	オーガニック調整後営業利益	209	215	118	245	256	373	456	490	673	-
	M&Aによる調整後営業利益 ^{※2}	-	-	46	38	18	5	8	63	90	-
	調整後成長率	-	2.5%	-23.9%	73.2%	-3.1%	37.6%	22.8%	19.4%	37.9%	20.8%
	オーガニック調整後営業利益寄与度	-	2.5%	-45.2%	49.7%	-9.5%	35.8%	20.8%	5.8%	21.6%	10.2%
	M&Aによる調整後営業利益寄与度	-	-	21.3%	23.5%	6.4%	1.8%	2.0%	13.6%	16.3%	10.6%

NIPPON PAINT GROUP

※1 親会社の所有者に帰属する調整後四半期利益 ※2 買収後1年間の損益を累計

3

はじめに、P3 で当社の長期業績推移を示しています。

この第1四半期も好調でしたが、長期で見ても売上収益で16%、調整後営業利益で17.6%のCAGRとなっています。また、オーガニック、インオーガニック成長における利益寄与度もそれぞれ10%ずつと、「アセット・アセンブラー」モデルにおける両輪がうまく機能していることが見て取れます。

2. 2026年第1四半期の決算概況～過去最高の売上収益、営業利益～

・売上収益は、M&A (AOC) 貢献や為替効果、販売数量の増加、製品ミックスの改善により、+20.8%増収

・調整後営業利益は、増収効果に加え、原材料費率と販管費率の改善により、+37.9%と大幅増益（オーガニック貢献+21.6%、インオーガニック貢献+16.3%）。調整後営業利益率も15.6%と、+1.9pt改善

・AOCは高い収益性で貢献継続、市場は底打ちの兆し
 ・NIPSEA中国は、市場軟調継続も、テクスチャーペイントと非塗料事業の力強い成長により、増収
 ・日本、NIPSEA、DGL（太平洋・欧州）、米州で、販売数量が増加するなど、増収

・イラン情勢に伴う原材料費用の高騰は、地域・事業ごとに影響度は異なるが、通期では概ね価格転嫁や原価低減活動で相殺できる見通し

(億円)	2025年 1Q	2026年 1Q	YoY
売上収益	4,057	4,903	+20.8%
売上総利益	1,726	2,150	+24.6%
売上総利益率	42.5%	43.9%	+1.3pt
調整後営業利益	554	764	+37.9%
調整後営業利益率	13.6%	15.6%	+1.9pt
調整後EPS (円)	18.5	24.2	+30.4%
EPS (円)	15.2	22.2	+46.0%

NIPPON PAINT GROUP

4

第1四半期の決算概況についてご説明いたします。

連結では、売上収益 4,903 億円、調整後営業利益 764 億円、調整後営業利益率 15.6%、調整後EPS 24.2 円と、いずれも第1四半期として過去最高を達成しました。売上成長率は 20%強、調整後営業利益成長率は約 38%と大幅な増益であり、調整後営業利益に関してはオーガニック、インオーガニックがそれぞれ 21.6%、16.3%の貢献をしています。また、調整後営業利益率も 15.6%と、前年同期に比べて 1.9 ポイント改善しています。

特に 3 月以降のイラン情勢の緊迫化に伴い非常に不確実性の高い市況でしたが、目まぐるしく変わる環境下、各パートナー会社が極めて迅速かつ自律的に対応することで、顧客への供給責任を第一に果たし、こうした不確実な時期にこそ頼れるパートナーとしての存在感を示せたのではないかと考えています。

イラン情勢に伴う原材料価格高騰の影響は、地域・事業ごとに異なりますが、第2四半期から下期にかけて徐々に表出する見込みであり、マージンも四半期ごとに多少振れる見通しです。ただし、その対策としての原価低減活動や販売価格への転嫁により、2026 年通期では概ね相殺できる見通しです。為替も 2 月予想よりは円安に振れており、不透明な需要環境と併せても、通期のガイダンスは十分達成可能と見込んでいます。第2四半期にも改めて見通しをお伝えできればと思います。

当社グループは、過去の危機対応と同様に、こうした困難な市況においてこそグループとしての強み、それはグループの調達力や、現地マネジメントによるアジリティ（敏捷性）を持った経営判断であったりしますが、そうした強みを発揮することで、結果的には各地でさらに優位性を高める機会につながれると考えています。

3. 市況・事業環境

		日本	NIPSEA中国		DGL (太平洋)	DGL (欧州)	米州	AOC
2026年 第1四半期	自動車	⇒	⇩		△	△	⇩	(その他周辺)
	建築	⇩	⇒ TUC	⇒ TUB	⇒	⇒	⇒	⇒
2026年 第2四半期 見通し	自動車				△	△		(その他周辺)
	建築		TUC	TUB				
2026年 通期 見通し	自動車				△	△		(その他周辺)
	建築		TUC	TUB				

■ 市況 (前年同期比)
好調 軟調

■ 業況 (市場対比) ※

⇩ アウトパフォーム ⇨ インライン ⇩ アンダーパフォーム ※当社推定

市況については、全般に前期並みかやや軟調となる中、当社は市場シェアを維持・向上させながら、利益ある成長をしっかりと目指していきます。なお、第2四半期以降の市況の見通しについては、あくまで現段階のものであり、今後のイラン情勢次第で変化があり得る点をご了承ください。

4. 主要セグメントの決算概況

(億円)		2025年 1Q	2026年 1Q	YoY	概要
日本	売上収益	484	524	+8.4%	建築・構造物向け高耐久製品の販売が拡大した汎用、製品値上げの浸透が進んだ工業用などで増収を確保し、増収
	調整後 営業利益	45	65	+43.8%	増収効果に加え、原材料費率と販管費率の改善により、増益
NIPSEA 中国	売上収益	1,276	1,397	+9.5%	不動産市場全体と市場センチメントの低迷も、テクスチャーペイントと非塗料事業の力強い成長により、増収
	調整後 営業利益	199	246	+23.8%	増収効果と原材料費率の改善により、増益
NIPSEA 中国 以外	売上収益	943	1,104	+17.1%	シンガポールグループやタイグループ、Betek Boya (トルコ)、PT Nipsea (インドネシア)、Alina (カザフスタン)、インドの成長により、増収
	調整後 営業利益 ^{※1}	169	198	+17.0%	増収効果や原材料費率の改善、継続的な合理化努力により、増益
DGL (太平洋)	売上収益	560	685	+22.4%	汎用における製品ミックスの改善、その他周辺事業における小規模買収の貢献により、増収
	調整後 営業利益	77	100	+29.6%	製品ミックスの改善に伴う増収効果と、その他周辺事業における小規模買収の貢献により、増益
DGL (欧州)	売上収益	338	401	+18.5%	建築用は中欧事業の牽引により増収、フランスと南欧事業は市況がほぼ前年並みとなる中で高賃効果も享受し、小幅に増収
	調整後 営業利益	5	5	+3.9%	南欧・中欧事業の増収と高賃効果により、増益
米州	売上収益	289	306	+5.7%	汎用、自動車用ともに市況の影響を受けつつも増収を確保し、増収
	調整後 営業利益	12	12	+5.0%	増収効果と原材料費率の改善、コスト管理の徹底により、増益
AOC ^{※2}	売上収益	168	485	+189.8%	市場全体の需要は各地域で若干改善し、販売数量が増加したものの、依然厳しいマクロ経済環境下での価格圧力により相殺
	調整後 営業利益	57 ^{※3}	152	+167.0%	価格圧力の影響も、1ヵ月分の業績貢献だった前年同期に対して、今期はフル寄与となり、大幅増益

NIPPON PAINT GROUP

※1 セグメント内取引における繰上未実現利益等の調整額を除く。NIPSEAセグメント全体とNIPSEA中国・NIPSEA中国以外の合計は一致しない
 ※2 2025年は、1ヵ月分の業績 ※3 PPAが確認したことに伴い、過及修正を実施

6

P6において、主要セグメントの概況をご説明いたします。詳細は質疑に委ねますが、各セグメントについて簡単に補足いたします。

1. 日本セグメントについては、汎用で建築・構造物向けの高耐久製品の販売が拡大したほか、工業用でも製品値上げの浸透が進み、さらには3月以降、供給確保を睨んだ相応の前倒し需要がありました。全体では、原材料費率の改善、販管費率の抑制とも相俟って増収増益となり、調整後営業利益率は12.3%まで改善しました。第2四半期以降も、まずは顧客への供給責任をしっかりと果たしながら、適正な収益も確保していく予定です。
2. NIPSEA 中国については、引き続き増収増益となり、調整後営業利益率も17.6%と、前年同期に比べて2ポイントの大幅改善となりました。TUCは、軟調な市場と消費者センチメントの弱さが続く中、塗料・非塗料の双方で販売数量は増加し、非塗料事業とテクスチャーペイントが従来型塗料の落ち込みを補って、現地通貨ベースではほぼ前期並みとなりました。TUBは、引き続き不動産市場の影響を受けて現地通貨ベースで5%減収となりましたが、前年同期比では減少率が縮小しています。加えて、自動車用は中国メーカー向けを中心に大きく伸びています。厳しい市場の中でも、無理に販売数量を追うのではなく、強い領域を伸ばして利益率を上げられている点が重要と考えています。引き続き、中国市況の早期回復は前提にせず、市場シェア、製品ミックス、非塗料事業の拡大により、利益を伴う成長は維持できると考えています。
3. NIPSEA 中国以外では、厳しい環境下でも各地域で販売数量の増加、製品ミックスの改善による健全な成長と継続的な合理化努力の両立により、大幅な増収増益となりました。

4. DuluxGroup の太平洋においては、市況がほぼ前期並みとなる中、引き続き製品ミックスの改善や小規模 M&A が寄与し、為替効果も相俟って大幅な増収増益を達成しており、変わらぬ安定成長ぶりとなりました。一方、欧州においても、大幅増収を果たしていますが、フランスの市況こそ前期並みまで回復したものの、まだ収益性は回復途上、南欧・中欧は好調とまだら模様となりました。
5. 米州については、汎用・自動車用ともに市況の影響を受けつつも増収となり、利益面でも増益を確保しています。
6. AOC については、前年同期は 1 カ月分の貢献だったのに対し、フル寄与となった今期は大幅な増収増益となりました。引き続き非常に高いマージンは維持できており、高い利益貢献、キャッシュ創出をしています。ご参考として、現地通貨ベースの売上収益は前年同期と比べて 2 %減収ながら販売数量が増加に転じたのは明るい材料です。

5. 主なトピックス

日本ペイントグループの創業145周年（3月14日）

- ・ 2026年3月14日に1881年（明治14年）の創業から145周年
- ・ 全てのステークホルダーの皆様への感謝に加えて、歴史とともに培ってきた想いや製品・技術を受け継ぎながら、新たな価値を創造していく

145周年記念特設サイト：<https://www.nipponpaint-holdings.com/company/145th/?home>



「第5回日経統合報告書アワード」にて、「優秀賞」を受賞（3月19日表彰）

- ・ 日本経済新聞社主催の「第5回日経統合報告書アワード」において、「優秀賞」を受賞（第4回は最高位に当たる「総合グランプリ」、第3回はグランプリに次ぐ「グランプリG賞」を受賞）
- ・ 今回の受賞を励みとしながら、今後も統合報告書のさらなる改善・拡充を図り、国内外の投資家の皆様、ステークホルダーの皆様との積極的な対話に努める

統合報告書2025：https://www.nipponpaint-holdings.com/ir/assets/files/name/IntegratedReport_2025_all.jp.pdf



NIPPON PAINT GROUP

7

主なトピックスとして、2点お伝えいたします。

当社は3月に創業145周年を迎えました。日本の上場企業でここまでの歴史があり、なおかつ現在これほどの成長を見せている企業も少ないのではないかと思います。また、これを機に、品川の東京事業所に新しいショールームを設置するなどもしていますので、よろしければぜひお立ち寄りください。

また、今年の日経統合報告書アワードにおいて、当社は「優秀賞」を受賞することができました。前年の「総合グランプリ」には及びませんでしたが、引き続き日ごろのIR活動と併せて、投資家の皆様との積極的な対話に努めたい考えですので、よろしく願いいたします。

以上、ご静聴ありがとうございました。